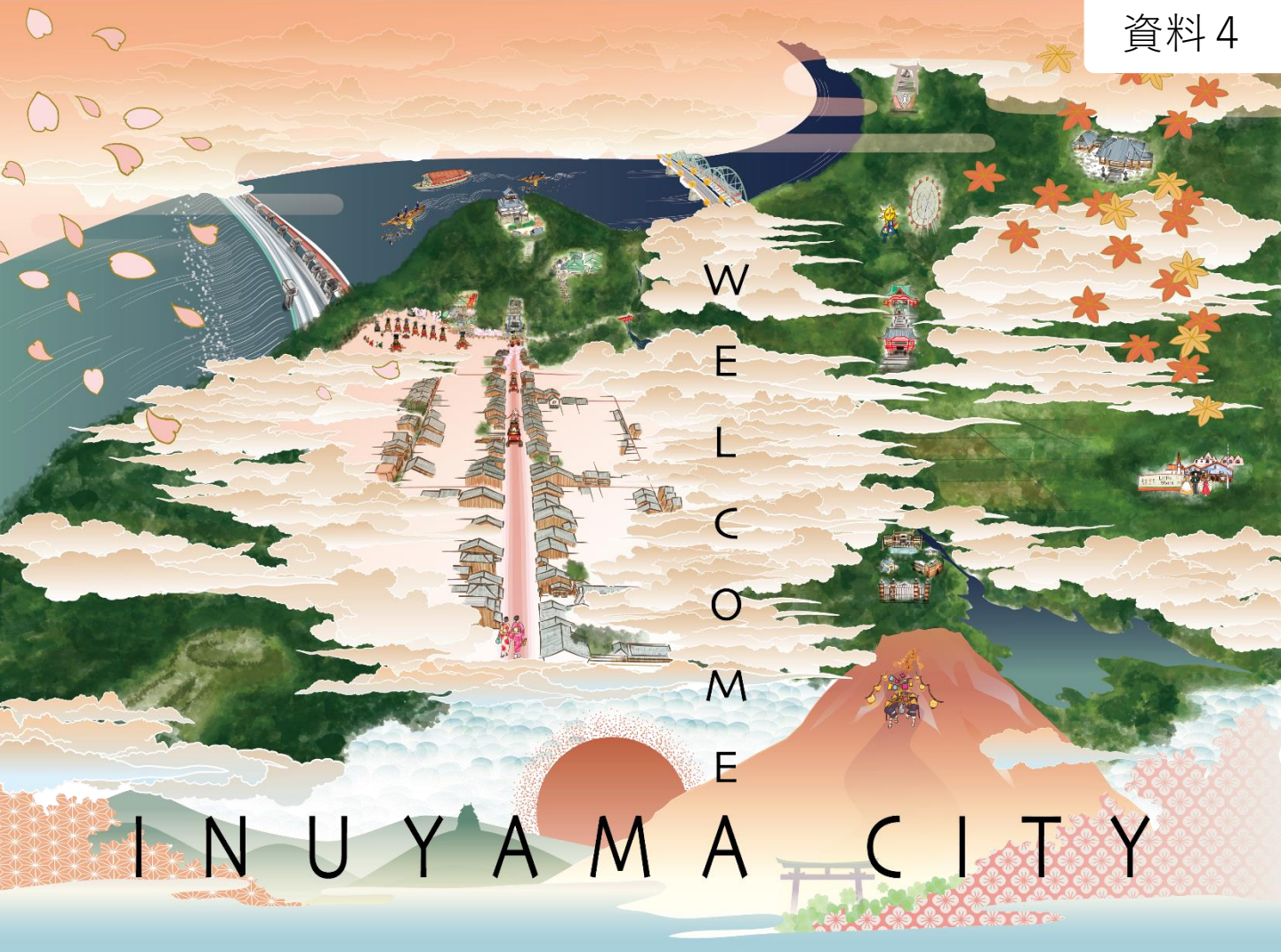




令和 6 年度

犬山市観光戦略会議

施策別シート



重点 プロジェクト名	1 遊園ルネサンス
高めるもの・ 方向性	景観・インフラの整備（ハード施策）
チャレンジ する施策	憩いの場、滞在の場としての内田地区木曽川河畔整備（社会実験から実装へ）
施策の 取り組み	内田地区の河畔空間を高質化するとともに、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、魅力ある河畔空間の整備に向けた取組を令和4年度より継続している。令和5年度には花火期間中に「宵のカタリーヴァ」として子ども向け体験ブースの運営や「柿狩り&犬山朝市へ出店！」など地域住民とともに実証事業を展開。令和6年春期には「河畔 de おためし大作戦 2024」として桜のライトアップ・ナイトマーケット、住民との意見交換会などを実施。
	 宵のカタリーヴァ（風車クラフト）  柿狩り & 犬山朝市へ出店！
	 「河畔 de おためし大作戦 2024」桜ライトアップ  「河畔 de おためし大作戦！ 2024」ナイトマーケット
取り組み の総括	○ 宵のカタリーヴァ R5.8 ペットボトルボーリング・風車クラフトの体験ブースを運営 2日間で延べ842名が体験 ○ 柿狩り & 犬山朝市へ出店！ R5.11 地元で収穫した柿を「River to Summit 2024」の開催時に犬山朝市で販売 ○ 河畔 de おためし大作戦！ 2024 R6.3 全長280mにわたるライトの設置、キッチンカー等が出店することで回遊性の向上を目指した 地元住民など河畔に関わる人達との関係性を深め、河畔に必要な機能の把握と実践、整備に向けた機運を高めることを目的に今後も継続していく。
今後の展開 （予定）	・ 令和6年度 地質調査、かわまちづくり計画策定作業、実証事業、対話の場 ・ 令和7年度 かわまちづくり計画策定（登録）、実証事業、対話の場 ・ 令和8年度 整備方針の決定、実証事業、対話の場 ・ 令和9年度 基本設計、実証事業 ・ 令和10年度 実施設計、実証事業 ・ 令和11年度～ 工事着手 ※ 国土交通省と連携して護岸等も含め河畔全体を一体的に整備する可能性が広がるよう、令和7年度中に「かわまちづくり計画」の策定・登録を目指す。

重点
プロジェクト名

1 遊園ルネサンス

宵のカタリーヴァ R5.8



作戦会議でブース案の発表



事前にチームで集まってテストを実施



ペットボトルボーリングのブース



風車の作り方をお客さんにレクチャー

柿狩り & 犬山朝市へ出店！ R5.11



脚立で登って柿を収穫



犬山朝市で柿を販売

河畔 de おためし大作戦！2024 R6.3



河畔で机を並べてカタリーヴァを開催



桜の木の下で地元住民と語り合い



ライトアップの下でナイトマーケット



遊歩道全体で桜が満開となる

取り組み
状況

重点 プロジェクト名	2 日本ライン再発見ルート						
高めるもの・ 方向性	景観・インフラの整備（ハード施策）						
チャレンジ する施策	栗栖の自然環境を活かしたアクティビティサイトの整備と充実						
施策の 取り組み	栗栖園地は木曽川河川敷内の広大な芝生広場であり、普段からキャンプ利用等で親しまれている。令和2年度国土交通省により園地南部分の竹木伐根が実施されたことを契機に、令和4年度から園地拡張工事(芝貼り)を実施。増水の影響を受けつつも事業継続し、景観向上と園地拡張による更なる利活用や地域活性化を目指している。  芝張り 実施前  芝張り 実施後						
	 参加者への説明時  役割分担をして作業を行う						
取り組み の総括	本事業の財源にはあいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用し、栗栖園地利用者へ現地での受付時に参加を呼び掛けることに加え、桃太郎発展会を中心とした地域住民と市職員の延べ人数54名が協働して芝張りを実施。令和5年度では芝生エリアを1,260㎡拡張した。 < 芝張り(拡張) の実績 > <table><tr><td>令和4年度</td><td>2,250㎡</td><td>令和5年度</td><td>1,260㎡</td><td>合計</td><td>3,510㎡</td></tr></table>	令和4年度	2,250㎡	令和5年度	1,260㎡	合計	3,510㎡
令和4年度	2,250㎡	令和5年度	1,260㎡	合計	3,510㎡		
今後の展開 (予定)	木曽川の河川敷内という自然の状況を見極めつつ、あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用して今後数年芝生エリアを拡張していく。 さらには将来にわたっても栗栖園地を持続可能かつ適正に管理できるような仕組みを作り、親水空間の充実・地域経済活性化を実現したいと考える。そのために、令和6年度～7年度にかけて「かわまちづくり計画」を策定し、河川敷地占用許可準則で定められている「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けた上で管理団体の認定を目指し、引き続き関係機関との協議・検討を進める。						

重点 プロジェクト名

2 日本ライン再発見ルート

取り組み 状況



施工前の芝生



芝生を等間隔に置いていく



芝生を並べた後は竹串を打ち込む



少しずつ芝生エリアを拡張



栗栖園地の利活用を拡げる実証実験
として芝張り体験を開催！

2024年3月22日⑥

午前の部	午前9時～12時
午後の部	午後1時～4時

受付 栗栖園地 駐車場

対象 誰でも参加可
(おひとり様、友達同士でもOK)

※雨天時は3/25(月)へ順延

主催 犬山市 観光課

この取り組みは「あいち森と緑づくり都市緑化推進事業交付金」を活用しています



芝生エリアの全体図

重点
プロジェクト名

3 城下町景観・環境レベルアップ

高めるもの・
方向性

市民とともにある観光（市民参画・交流・関係人口・多様な参画）

チャレンジ
する施策

本町通りの在り方構築（屋外広告物、ゴミ・音・においなどの環境）、目指す姿とまちのルールづくり

施策の
取り組み

本町通り周辺には多くの来訪者がある一方で、ゴミ・音・におい・混雑などの課題が生じている。地域住民と観光客の共存と調和を図るため、受入体制の充実を図る必要があることから、各種取組みを実践している。例として仮設休憩所とゴミ箱の設置、環境整備員の配置、住民用臨時駐車場確保等の取組みを行い持続可能な観光地を目指す。



福祉会館跡地にテント等を全14基設置



東丸の内ポケットパークにはテントを2基設置



クリーンキーパーによる城下町の清掃活動



北小学校での住民用臨時駐車場

取り組み
の総括

この施策の財源には観光庁の「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」を活用している。課題は多様であり本質的な解決は直ぐには成し得ないが、出来ることから実践していくことが重要と考えている。取組み内容に関しては今後も更なる工夫は必要であるものの一定の効果があると認識している。また、来訪者に対して観光リーフレットにマナーアップの記事を掲載するなど、意識啓発の取組みも始めている。

今後の展開
(予定)

来訪者・地域住民が共存・調和した観光地づくりを目指し、引き続き必要な取組みを粘り強く実施していく。犬山観光全体の課題を的確に捉えた上で、混雑時期や新たな課題など、現場の状況に応じて適切に対応して取り組んでいく。また各種プロモーションやコンテンツ造成等において平準化・分散化につながる施策を推進することも重要であり、取組みを進める。

重点
プロジェクト名

3 城下町景観・環境レベルアップ



休憩エリアにはパラソルも設置



観光客がベンチやテントを使用



臨時駐車場を周辺住民へ開放



城下町の各所へゴミ箱を設置



満タンになったごみはクリーンキーパーが回収



道路上的ごみ拾いも実施

取り組み
状況

大人“アガル”スマートな犬山観光のススメ

国宝が見守るまちで、
国宝に誇れる行動を。



日本に数ある城下町、中でも犬山城下町は
お城に近いのが特徴です。城下町では、
ゴミは分別してゴミ箱へ。折角の国宝犬
山城の眼前だから、少し胸を張って帰れ
たら、素敵です。

住む人と共に守られてきた
江戸の町並みがあります。



犬山城下町に残る江戸時代の町割りは、
住む人の生活と共にあったからこそ守ら
れてきました。見渡せば、ご飯屋さんの
隣は民家ということも。**思わぬ立ち入り
に、ご注意ください。**

“歩きながら”はやめて、
粋な時間を味わおう。



お店を巡る“食べ歩き”は大歓迎。でも、
**歩きながらの“歩き食べ”や、歩きスマ
ホ、歩きタバコは勿体ない。**江戸の風情
漂うこのまちを、かつての町人の気分で
粋に味わってみては。

観光パンフレットに掲載した観光客向けのマナー啓発

重点
プロジェクト名

3 城下町景観・環境レベルアップ

高めるもの・
方向性

市民とともにある観光（市民参画・交流・関係人口・多様な参画）

チャレンジ
する施策

本町通りの在り方構築（屋外広告物、ゴミ、音・においなどの環境）、目指す姿とまちのルールづくり

施策の
取り組み

城下町の課題を共有した上で改善の取り組みを実践する為に、犬山商工会議所、犬山市観光協会、犬山まちづくり(株)、犬山市の四者により「SDGs観光まちづくり会議」を月1回の頻度で開催し検討を進めている。課題の一つに事業者間の繋がりが生まれづらい状況にあることから、事業者同士の意見交換や交流、連携する機会としてR6.5に「防災に関するワークショップ」、R6.7に「SDGs観光まちづくり交流会」を開催した。



伊勢おはらいまち会議を視察



防災に関するワークショップ



SDGs観光まちづくり 参加者のみなさん



事業者同士の交流の機会となった

取り組み
の総括

四者による「SDGs観光まちづくり会議」を月1回程度と頻度高く開催し、課題を共有した上で具体的な取り組みを検討し実践している。会議の検討の結果として「防災に関するワークショップ」や「SDGs観光まちづくり交流会（懇親会）」などを開催し、多くの事業者の参加を得ることが出来た。参加者からは好意的な反応が多く、事業者同士の情報交換も含めた交流の機会は重要であるとあらためて認識した。

今後の展開
(予定)

今後もSDGs観光まちづくり会議は定期開催し、課題の改善の為の取り組みを継続実施していく。事業者同士の繋がりが深くなることで強い地域を形成することに繋がると捉えており、今後も交流や情報交換、共通の学びの機会を設けるよう努める。将来には、事業者同士の緩やかな繋がりがあり、地域全体で連携し課題の改善に取り組むことが出来る持続可能な観光地づくりを目指す。

3 城下町景観・環境レベルアップ

SDG s 観光まちづくり会議 伊勢市へ先進地視察 R5.12



伊勢市の観光に関する取組状況を聞く



伊勢市のまちなみを現地視察

防災に関するワークショップ R6.5



講師は防災交通課の職員(防災士)



スタッフも関わり意見交換を進める

SDG s 観光まちづくり交流会 R6.7



参加者同士の交流が進むことを願い開催



飲食しながら立食スタイルでの交流会

重点
プロジェクト名

6 クロスオーバー資源開発

高めるもの・
方向性

滞在・体験型観光（宿泊施設の充実&多様な体験コンテンツ提供）

チャレンジ
する施策

ナイトタイムエコノミーの充実・宿泊施設との連携・犬山観光特使就任による犬山PR・インナーブランディング（郷土愛の醸成）他

施策の
取り組み

滞在・体験型観光を進め消費と宿泊を伸ばすため、宿泊施設との連携は重要である。令和5年8月にNHK大河ドラマの鑑賞会をホテルμスタイル犬山エクスペリエンスで開催。また効果的なプロモーションを図るため令和5年10月には犬山観光特使に遼河はるひ氏が就任、ホテルインディゴ犬山有楽苑でお披露目が行われた。ナイトタイムエコノミーを充実させる為、遼河氏も参画した「犬山観光グルメマップ」は市内ホテルスタッフとともに製作した。



取り組み
の総括

犬山市観光戦略の主要な目的は宿泊者数を伸ばし消費を高めることである。そのため宿泊施設との連携は必須であり取組みを強化する必要がある。犬山市が舞台となるドラマの鑑賞会や犬山観光特使の就任式を宿泊施設で実施することで、イベントが円滑かつ快適に行うことが出来た。また犬山観光特使に、遼河はるひ氏に就任いただくことは効果的で強力な観光PRに繋がるものと期待している。加えてナイトタイムエコノミーを伸ばしていくにあたり、夕食時の飲食店でどのような店舗があるか分かりづらいという声に応え、市内宿泊施設のスタッフに聞き取りしてグルメマップを作成するなど、宿泊施設との連携による新たなコンテンツや付加価値の創出を進めることが出来た。

今後の展開
(予定)

市内宿泊施設と連携できる機会や取組みを確実に広げていくことで、犬山観光の魅力を向上させ、消費を高め域内循環の活性化に繋げていきたい。市内ホテルスタッフとの連携によるグルメマップの作成など様々な取組を進めて行く。

遼河はるひ氏の特使就任により特使は田村淳氏と合わせて2名となった。田村氏とは別の視点とアプローチで犬山観光を盛り上げていただけることを期待する。令和6年9月には遼河氏が監修、ホテルインディゴとコラボし犬山の食材をたっぷり使用した特別ランチメニューを開発・販売する予定である。

重点 プロジェクト名

6 クロスオーバー資源開発



R5.7 ホテルμスタイルで開催した大河ドラマ鑑賞会



放送の終盤では羽黒城址・楽田城址が紹介された

取り組み 状況



R5.10 インディゴで実施した犬山観光大使 遼河はるひ氏の就任式



遼河はるひ氏が監修したグルメマップ

重点
プロジェクト名

6 クロスオーバー資源開発

高めるもの・
方向性

滞在・体験型観光（宿泊施設の充実&多様な体験コンテンツ提供）

チャレンジ
する施策

季節ごとに異なるコンテンツ・体験イベントの実施
ナイトタイムエコノミーの充実

施策の
取り組み

観光地の魅力向上には季節ごとに異なるコンテンツの充実が重要である。体験型観光コンテンツをまとめて楽しめる企画「思い出できすぎ#犬山体験」を春休みと夏休み時期に開催した。また初夏(6月)・冬(2月)には花手水(はなちょうず)を展開し城下町の新たな魅力づくりに努めた。夜の賑わいづくりとして令和5年11月には犬山駅西のロータリーにおいてイルミネーションを設置した。



ainiを活用して体験メニューを紹介



わらじ作りなど多様なメニューがある



城下町の魅力向上のため花手水を設置



犬山駅西でイルミネーションが点灯

取り組み
の総括

「思い出できすぎ#犬山体験」は令和5年度でメニュー数32件（うち新規8件）、延べ270人の参加があり、観光客が人との新しい繋がり・発見の場として個性豊かな体験を通して、犬山の魅力を発見できる機会を提供した。

閑散期の観光コンテンツ充実も視野に花手水(はなちょうず)を初夏と冬に実施した。花手水の取組みに参画する事業者や神社等も増えており将来は大きな展開となることを期待している。

犬山駅西ロータリーのイルミネーションは市内事業者から寄附を受け実現したものであり、犬山観光の玄関口となる犬山駅前を明るく照らしたことで賑わい創出に繋がるとともにナイトタイムエコノミーの充実にも資するものとなった。

今後の展開
(予定)

観光コンテンツの充実は観光地の魅力向上や価値の高まりだけでなく、季節ごとに異なる魅力を提供することで観光客の分散化・平準化にも繋がると考える。また観光コンテンツにおける担い手の増加は、観光に関わる市民が増え観光施策推進の理解を深めるとともに、支援・参画者を増やすことにも繋がるため取り組みを継続していく必要がある。

重点
プロジェクト名

6 クロスオーバー資源開発

取り組み
状況



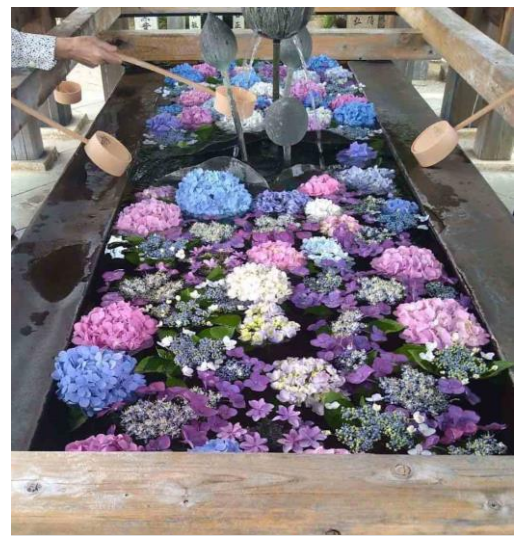
サンキャッチャー作り体験



犬山産竹うちわ作り体験



彩り豊かな花手水を設置した



成田山でも自主的に花手水が設置された



R5.11 点灯式を実施



犬山の玄関口を明るく照らす

重点
プロジェクト名

6 クロスオーバー資源開発

高めるもの・
方向性

資源発掘・創造ブランド形成（ソフト施策）

チャレンジ
する施策

犬山祭がつなぐ観光まちづくりの推進
ナイトタイムエコノミーの充実

施策の
取り組み

本市には長い歴史と魅力を有する催事が多くあり、その中でもユネスコ無形文化遺産である犬山祭や夏の風物詩である日本ライン夏まつりロングラン花火は毎年多くの来訪があるとともに、市民からも親しまれ愛されている。コロナ禍を経てこれらの催事も内容を再考しブラッシュアップすることで犬山観光の価値とブランド力を高め郷土愛の醸成に繋がると考える。令和5、6年度も工夫と改善を重ね魅力あるものとなった。



城前広場には車山が集結した



受入体制整備のため、仮設トイレを設置



10日間開催し、延べ約5万人が来場



実証事業「宵のいぬやMARCHE」も実施

取り組み
の総括

令和6年4月に開催された第390回犬山祭では、城前広場で夜車山（よやま）13輦が約20年ぶりに集結した。迫力と魅力ある試みとなり来訪者と祭関係者の満足度が高まった一方で安全な運営という面では今後課題が残った。

令和6年8月に10日間連続で開催した第45回日本ライン夏まつりロングラン花火では、市内企業等から5年ぶりに協賛金を募ることとなった。また花火と合わせて開催した宵のいぬやマルシェには20店舗超の出店があり催事に賑わいと魅力をもたらしこととなった。大きな事故や混乱はなく無事に10日間を終えることが出来た。

今後の展開
（予定）

犬山祭、ロングラン花火ともに、来訪者及び市民が楽しみ、愛着を持つ大規模で魅力的な催しとなっている。今後も安全な運営が最重要であり、その前提の上で魅力的でチャレンジングな取り組みを模索していくことになる。関係機関、団体、警察等との連携と協力を得ながらその時点での最適な内容となるよう、細心の注意を払い進めていく必要がある。

第390回 犬山祭

R6.4



夜車山の点灯時には多くの人で賑わう。安全対策が課題



会場全体でゴミステーションを設置



警備員を配置して交通規制を行う

第45回 日本ライン夏まつりロングラン花火

R6.8



飲食ブースなど約20店舗が出店



様々な店舗が出店し花火と共に魅力を向上



R5整備の彩雲橋トイレ西側スペースも活用



城前では花火撮影の為多くの来訪者がある

重点
プロジェクト名

8 広域連携

高めるもの・
方向性

広域連携による周遊観光の構築（市外連携型の観光コンテンツ提供）

チャレンジ
する施策

県内～東海～中部～全国など圏域ごとの連携強化（名古屋市・県内自治体・各務原市・木曽川流域・昇龍道等）
城・木曽川などテーマに即した広域連携とコンテンツ造成（国宝五城・木曽川中流域・尾張藩等）
リニア中央新幹線開業を意識した広域連携推進（首都圏・関西圏・インバウンドを意識した誘客）

圏域及びテーマに即した広域連携とコンテンツ造成を進めている。犬山城は本市の重要な強力なコンテンツであり、来訪動機の高い観光誘客に繋がると考え国宝五城でのPRに注力した。また「木曽川流域」という繋がりでも周辺自治体と連携することにより地域全体の魅力向上に資する取組みを進めた。木曽川を挟む各務原市との共同での取組みとして高質化された屋形船を用いて催事を実施した。さらに名古屋鉄道(株)による「なごや圏」という枠組みでの広域連携も行うなど市単独では成し得ない取組みが促進された。

施策の
取り組み



姫路市HPより引用

国宝城郭都市観光協議会



木曽川中流域観光振興協議会



犬山・各務原広域観光推進協議会



名古屋鉄道HPより引用

Co-machi 観光推進会議

取り組み
の総括

犬山の主要な観光資源である「城」に注力した広域連携や「木曽川」をテーマとした取組みは非常に有効であった。市単独では成し得ない広域で大規模な宣伝・取組みを展開することが出来た。

今後の展開
（予定）

各種協議会での取組みへ積極的に参画することで、観光客への宣伝・PR及び他自治体などとの連携強化につなげていく。
また、遠方からの観光客やインバウンドが増加していくことに対応できるよう、より効果的な宣伝・誘客のスキーム、受入環境整備を検討・実践していく。

8 広域連携

取り組み
状況

国宝城郭都市観光協議会



姫路市で開催されたお城サミット



相互誘客を図るデジタルスタンプラリー

木曽川中流域観光振興協議会



全5市町が連携して魅力を発信



犬山朝市は正午まで時間を延長して開催

犬山・各務原広域観光推進協議会



木曽川の対岸同士で活性化を図る



遊覧船を活用したイベントを開催

Co-machi 観光推進会議



名鉄主導の元、愛知の魅力向上へ

重点プロジェクト名	その他
高めるもの・方向性	域内循環型の観光産業確立（地産地消）
チャレンジする施策	新たな財源獲得検討（税、利用料、寄付、クラウドファンディングなど）
施策の取り組み	時期により異なる使用料を設定できる仕組みを導入し、観光駐車場周辺の混雑緩和への効果検証、歳入の増加を図るため、令和6年6月定例議会にて条例の一部改正を行った。  キャススルパーキング（最大収容台数 約150台 ※東西合計）  内田観光駐車場（最大収容台数 約380台）
取り組みの総括	令和6年6月定例議会で犬山市観光駐車場の設置及び管理に関する条例の一部改正の可決を受けた。 これにより令和6年11月から観光駐車場の利用増加が見込まれる日を特定日として設定し、1時間あたりの使用料を変更（値上げ）する予定である。 特定日における普通自動車の駐車料金は300円/1時間 ⇒ 500円/1時間となる予定。
今後の展開（予定）	特定日の設定により、混雑緩和への影響を確認するとともに、財源確保の効果も検証する。また、現地での看板設置や市・観光協会HPなどにより事前周知を適切に実施し、混乱や支障の無いように準備・運用を行う。